

		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討
目視観察結果	目視観察の結果、工事に伴う異常は確認されなかった。			特になし
水質調査結果	基本・補助監視地点 基準値 St.1~4:SS=7mg/l St.5~7:SS=11mg/l	・St.1において3回、St.2において1回、St.4において1回基準値を超える値が観測された。 ・St.1で16日午前(11mg/l)、16日午後(9.3mg/l)、17日午前(11mg/l)、St.2で30日午後(8.5mg/l)、St.4で29日午後(7.7mg/l)で基準値を超える値が観測された。	・工事由来の濁りは観測されなかった。 ・基準値を超過した要因は、降雨による流入水路部からの濁水の流入、波浪や低潮位時における底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
	工事の濁り監視地点 基準値 St.8~18:SS=11mg/l	・St.17において1回、St.18において18回基準値を超える値が1回観測された。 ・St.17で14日午後(11mg/l)、St.18で11日午後(11mg/l)、14日午後(11mg/l)、15日午後(13mg/l)、16日午前(12mg/l)、16日午後(12mg/l)、17日午後(12mg/l)、18日午前(13mg/l)、18日午後(12mg/l)、22日午前(12mg/l)、22日午後(14mg/l)、24日午後(13mg/l)、25日午後(14mg/l)、28日午後(13mg/l)、29日午後(15mg/l)、30日午前(11mg/l)、30日午後(19mg/l)、31日午前(14mg/l)、31日午後(15mg/l)、で基準値を超える値が観測された。	・工事由来の濁りは観測されなかった。 ・基準値を超過した要因は、降雨による流入水路部からの濁水の流入、波浪や低潮位時における底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
	流入水路部	・SS = 11mg/lを超えた回数: St.A = 29回(6.0 ~ 85mg/l)、St.19 = 29回(8.8 ~ 59mg/l)、St.20 = 30回(11 ~ 87mg/l)		
	流入水路部調査地点(St.A, St.19, St.20)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。	・St.Aでは11日、14日~18日、21日~25日、28日~31日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は31日午後(85mg/l)に観測された。 ・St.19では11日、14日~18日、21日~25日、28日~31日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は21日午後(59mg/l)に観測された。 ・St.20では11日、14日~18日、21日~25日、28日~31日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は30日午後(87mg/l)に観測された。	・工事由来の濁りは観測されなかった。 ・降雨や生活排水による流入水路部からの濁水の流入や波浪による底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
気象概況	監視地点において異常値が観測されたのは、14、16、17、29、30日であった。 ・14日は北よりの風が強(最大風力3)であった。 ・16日は西よりの風が強(最大風力3)であった。 ・17日は北西ないし南東よりの風が強(最大風力3)であった ・29日は西北西ないし北西よりの風が強(最大風力4)であった ・30日は11時から13時半ごろまでかなり強い降雨であった。 (最大風力は調査員による現場観測値)			
補足項目(新種等)調査結果	・H18年度環境監視計画に基づく「補足項目(新種等)」に関する年間調査計画は以下のとおり。 ウィルモ類監視調査:H18年4月~(原則四季:年4回) ニライカクウナ調査:H18年4月~(原則四季:年4回) オサガコヤドリガイ監視調査:H18年4月~(原則四季:年4回) オキナワワラカニ生息監視調査:H18年4月・8月・9月・H19年2月 ・結果についてはホームページにて公表中。			
工事実施状況	・潜水探査(浚渫工事):1~4、14~18、21~25、28~31日(合計18日) ・フィルターユニット設置(藻場創造実験):3、7日(合計2日) ・C護岸仮復旧・測量(C護岸工事):11~12、14~16日(合計5日) ・水質汚濁防止膜設置(C護岸工事):28~31日(合計4日)			

